

第 1 1 回東京環状道路有識者委員会について

日 時：平成 1 4 年 1 0 月 3 1 日(木) 17:00 ~ 19:00

会 場：ホテルルポール麹町 麹町会館「マーブル」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
 (委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
 越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
 中条 潮 慶應義塾大学商学部教授
 森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長
 東京工業大学大学院教授

主な意見：

10/31読売新聞夕刊の記事について

- ・事実誤認している部分はその旨をきちんと伝え、今後、国・都は丁寧にフォローしていくことが重要。

前回委員会意見について

- ・計画内容についての、より具体的で詳細な資料を提示すべき。
(構造別、区市別の移転家屋数の概数を口頭にて回答)

これまでのP Iのとりまとめについて

アンケートについて

- ・たたき台の認知度が広域のわりには高い。
- ・P Iの評価はアンケートの中で説明しているので、割り引いてみるべき。
- ・P I方式で検討していることを知らせることもP Iとして重要。
- ・高架と地下案の評価について、「よく分からない」としている人が多いのは正直な結果。
- ・沿線を対象としたアンケートは、いつになろうとも実施すべき。
- ・概ねの世論を把握する意味はあるが、どういう属性の人がどう答えているか、詳細に分析すべき。
- ・2年前との変化について分析すべき。

新聞広告について

- ・反応は少なかったのではないか。
- ・デザインが下手。メッセージが伝わりにくい。
- ・P Iを実施していることに焦点を当てて伝えようとしているのは良いこと。

P I協議会について

- ・I Cに関する図面に議論が集中。図面だけ出すのではなく、生活や環境への影響を含めて提示すべきだった。
- ・協議員からプレゼンされた資料について、議論する時間がなく残念。
- ・必要性の議論はB / Cをきちんと出すべき。I Cの有無はB / Cを左右するので、必要性の議論の中で検討すべき。

提言のポイントについて

- ・構想段階で外環の必要性の有無をP Iで議論するには、どのような項目をどの程度の情報量で行うべきか、委員会で検討していく。
- ・次回までに各委員から、それぞれの意見を提出してもらう。
- ・委員会設立から1年たったので、自らの自己評価という意味も含めて年内に提言したい。